

人生の意味 震災から学んだ

人助け「今度は私が」

06.1.10 神戸

阪神間各地で成人式

芦屋市の成人式で新成人の代表に選ばれた同志社二年の末広恭子さん。竹園町。「大好きな芦屋に貢献できる職業に就きたい」と誓いの言葉を述べた。

阪神・淡路大震災で自宅が全壊。家族全員無事だったが、一年間市外に避難した。小学三年生だった当時の学級文集に

「今度は私たちが助ける人になりたい」と誓った。将来の夢は政治家で、現在大学で政策立案を学んでいる。

一方で、「あの地震がなければ水泳選手を目指していた」とも。当時市内のスイミングスクールに通い、水泳が得意だった。しかしスクールの親友を震災で亡くし、その

ショックから泳げなくなっていた。式では「震災でく

「二十歳の誓い」震災語る

阪神間で祝う集い

失った命思い 仕事決めたい

芦屋 06.1.10 朝日

芦屋市のルナ・ホールであった同市の成人式は615人が出席。代表の一人として同市竹園町、同志社大学二年末広恭子さん(20)が誓いを述べた。震災で友人を失い、避難生活を送った経験に触れ、「多くの人に助けられた経験から、将来は世の中に役立つ仕事に就きたい」と話した。

震災当時は小学三年。水泳教室で仲良しだった女の子が亡くなり、町内では家産の下敷きになった犠牲者が少なくなかった。「じくなった多くの命を引き継いで私たちが生かされていると思う。自宅は全壊。家族一人で祖父母宅に身を寄せ、

「二十歳の誓い」を述べる芦屋市の末広恭子さん。芦屋市栗平町のルナ・ホールで



芦屋の誓い、涙うつすら 末広さんの

つた多くの命を引き継いで、今の私たちは生かされている。「(震災後)芦屋に戻れた時のうれしさは今も忘れられない」と話したところ、一瞬涙声になった。が、すぐに顔を上げ、「どうすれば芦屋がより多くの人々にとって住みよい街になるか、勉強したい」とまっすぐに前を見つめた。

新成人を代表してあいさつする末広恭子さん。芦屋市栗平町、ルナホール



り、昨年の総選挙では選一スクールでは政策立案コンテストを企画した。

痛み乗り越え一歩

成人の日の9日、阪神間の自治体でも式典が開かれた。95年の阪神大震災当時、小学3年で被災した児童たちも、新成人となり、それぞれの誓いを胸に、式典に臨んだ。

成人式

震災経験胸に二十歳の誓い

芦屋

「勉強して地域貢献を」

06.1.10 毎日

芦屋市樂平町のルナホールで開かれた同市の式典には、700人近い新成人が参加。山中健市長は「若い時の失敗は必ず取り戻せる。困難に挑戦

する気概を持って下さい」と祝福の言葉を贈った。

新成人を代表して、とくに大学2年の末廣恭子さん(20)と金澤優子さん

(20)の2人が「二十歳の誓い」を述べた。震災で自宅が全壊し、親類宅などを転々とした末廣さんは「芦屋に戻り、友だちに会った時のうれしさは忘れられません。多くの人に助けられた経験を生

かして、みんなの役に立ち、地域に貢献できるよう勉強したい」と述べた。また金澤さんは昨年、姉妹都市の米モンテペロ市に留学した経験に触れ「愛をもって歩いていきたい」と話した。

式典ではこのほか、神戸市長田区を中心に活躍する市民バンド「ファンタスティックス」による

【震災前美】

震災被災者も決意
また、同市の成人式では、阪神大震災で自宅が壊れた同市芦屋町の同志大政業学7年未広哉子

人20がいます。
「多くの命を失った私たちが生かされている」と訴えた。
未広さんは当時、同市立精進小3年。震災後は龍野市や大阪府豊中市に一時避難し、しばらくの間、近くの小学校に通った。就がなく、上履きで通学したこともあったが、近所の人たちに助けられたという。 三説九